

# 経営比較分析表

佐賀県 雄野市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法非適用	下水道事業	公共下水道	Cc3
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)
-	該当数値なし	23.42	89.37

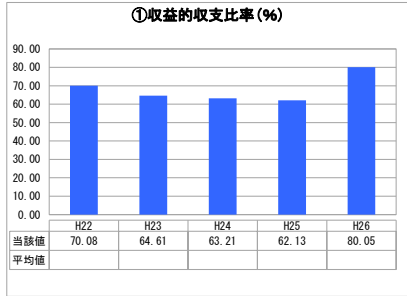
1か月20m<sup>3</sup>当たり家庭料金(円) 2,910

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
27,703	126.41	219.15
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
6,433	2.48	2,593.95

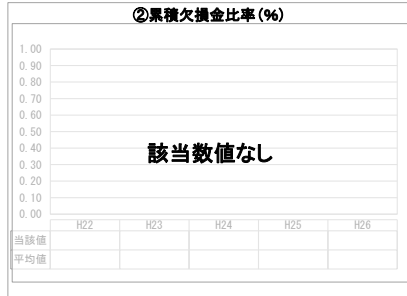
**グラフ凡例**

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成26年度全国平均

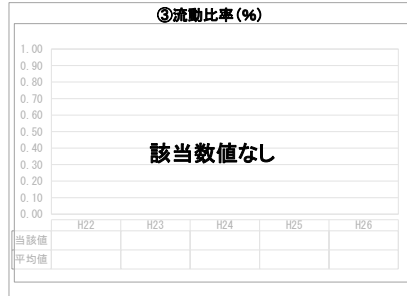
## 1. 経営の健全性・効率性



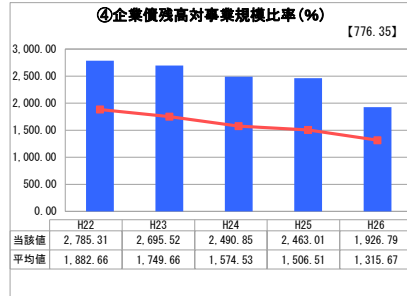
「単年度の収支」



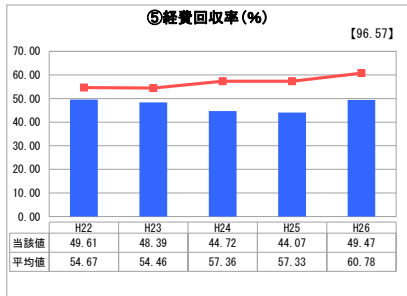
「累積欠損」



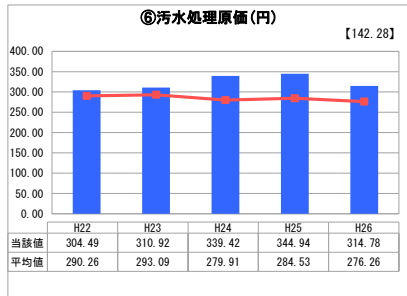
「支払能力」



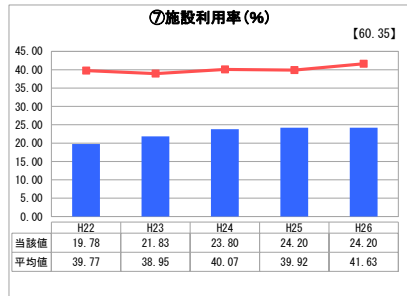
「債務残高」



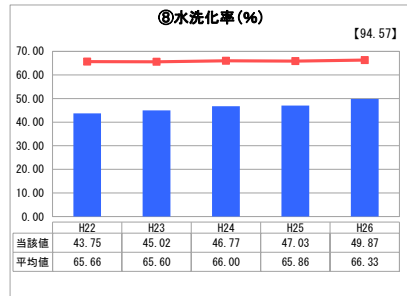
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」



「使用料対象の捕捉」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

①収益的収支比率は、100%未満であり赤字となっている。平成26年度は前年度比17.92ポイントと大きく改善しているが、⑤経費回収率は約50%に留まっており、使用料以外の収入に依存している状況になっている。半分以上が使用料以外から賄っている現状であり、使用料が適切であるか見直す必要がある。

④企業債残高対事業規模比率は、年々減少しているが、平均値と比べると高い水準にあるため、さらなる改善を進めていく必要がある。

⑥汚水処理原価は、平均値より高くなっている。接続率の増加や維持管理費の見直しにより、汚水処理原価を低くしていく必要がある。

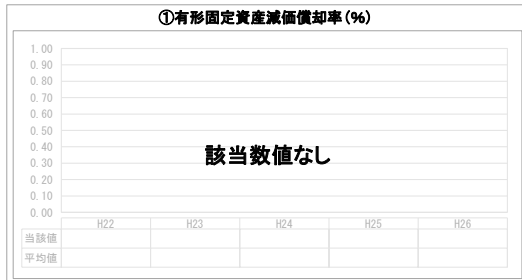
⑦施設利用率は、平均値を大きく下回っている。処理施設の利用状況や規模を考える必要がある。

⑧水洗化率は、整備中の事業であるため、平均値と比べると低い水準となっているが、年々微増している。しかし、大きな変化は無く殆ど横ばいの状態であるため、料金の見直しがない限り使用料の増加は見込めない。接続数の増加のための取組と共に使用料の見直しも必要である。

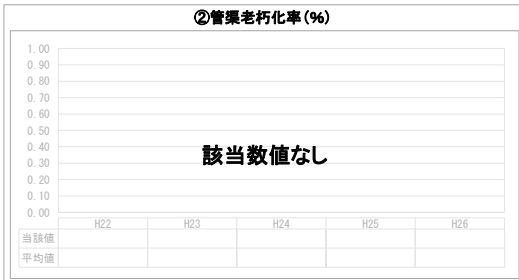
### 2. 老朽化の状況について

平成12年度年から整備を開始しており、管渠等の老朽化はまだ発生していない。

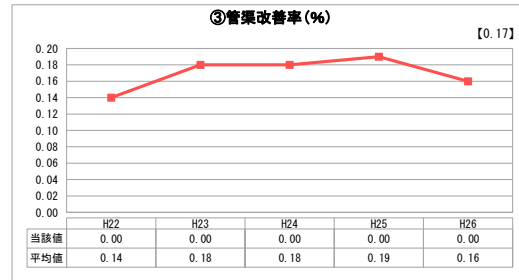
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

## 全体総括

全体を見てみると、経営の効率化のための改善点は使用料に関することが多くなっている。使用料を見直すことによって、経費回収率を改善させ、新規加入者を増やすことで、施設利用率や水洗化率等の改善を図っていきたい。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成22年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。